



02



03

面白すぎて。
おもわず
飛びました。

01/米粒のように小さいイロカエルアンコウを発見!と思ったら元気に泳ぎました!

02/見た瞬間に思わず「おお〜。」と声を上げてしまったヘンテコリンな形のお魚

03/なんと微笑ましい組み合わせ。ここでずっと写真を撮りたかった。けどと深い……

04/ピンテール・フェアリース。ツキノワイトヒキベラなどに混じっていることが多い

05/ホンテンスモドキ属の一種の幼魚。ピンクの身体がオシャレですね

06/模様も動きも可愛らかったイソモンガラの幼魚

07/アザミサンゴのなかに住むチンヨウジ。よく見れば可愛い顔。絶滅危惧種になるそうです

Ishigakijima Diving School presents

石垣島 マニアックス!



04



05

梅雨明けから秋にかけてが石垣島の海はベストシーズン。

確かにそれは否定すること口ではないが、

老舗ダイビングサービス「石垣島ダイビングスクール」流のファンダイブでは、冬からも新しいベストシーズンが始まる。

降り注ぐ太陽がなくてもいいじゃないか! マンタが来なくてもいいじゃないか!

石垣島の海に散らばる、小さくかわいい宝物のようなマクロ生物たち。

なにも珍しい生き物だけが全てではない。

彼らとコトン向かい合い、ちょっぴりマニアで、ディープな石垣島の魅力を体験してみよう。

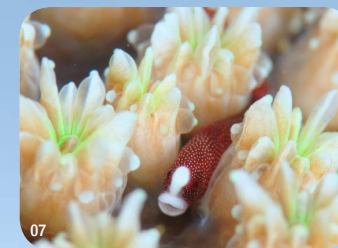
*Photo&test: 古見きゆう

*取材協力: 石垣島ダイビングスクール、石垣島ホテル ククル

*Design: tomato



06



07



Information Link

<http://www.ishigaki-diving-school.com>

関連情報HPへ

竹内のウォッチングアドバイス

* ハゼ編



ハゼと言ってもベニハゼやら共生ハゼやら色々ありますが、写真撮影するのであればまずは逃げない個体を探す事が第一!

すぐに逃げてしまう個体は粘っても逃げてしまうことがほとんどです。また、慣れている個体でも自分よりはるかに大きな物体が近づいてくるわけですから相手の気持ちになってそっと近づいてあげる事が基本だと思います。共生ハゼの場合は周りに他のハゼの巣穴等も多い為、その個体だけに気をとられず周りのハゼにも配慮する心構えは必要だと思います。

Ishigakijima Diving School presents

石垣島 マニアックス!



- 01/サンゴの隙間でぼーっとしていた真っ黒のクロダルマハゼ
- 02/ホテイベニハゼと思われる。ベニハゼも奥が深い
- 03/アカメハゼのペアが産卵しているところに出会いました
- 04/なかなか面白い模様をしたイチモンジコバンハゼの幼魚
- 05/アカネハゼ。アカハチハゼにそっくりだけどちょっと違う
- 06/はじめて出会いましたクモガクレ!形もなることながら名前がスゴイ!
- 07/青い模様がよく目立つ、通称アオベニハゼ



やっぱりハゼが好きですか?

僕は一年のうちに数回は石垣島を訪れる。その際に石垣島ダイビングスクール(以下IDS)の船に乗せてもらうことも非常に多い。以前から代表の竹内さんとは親しくしてもらっていることもあり、一緒に潜って旬の石垣島を案内してもらおうのだが、その大きな身体からは想像もつかないほどの小さいモノ好き。生粋のマクロハンターなのだ。そんな竹内さんが抱える、溢れんばかりの魚へ対する好奇心を探るべくマンマークで取材を開始した。「とにかく個人的に好きな魚ってなに?」という僕の問いには間髪いれずに「やっぱりハゼですね」と返ってきた。

当然ハゼにも色々な種類がいる。僕の曖昧な記憶が正しければ魚類のなかでは一番種類が多かったはずだ。竹内さんに導かれ、泥場、サンゴの隙間、ガレ場など舐めるように海底を散策していく。そこには、これまで見たこともなかったハゼや見過ごしていた瞬間が次々と浮かび上がる。

Goby Maniacs

あんなハゼやこんなハゼ



08/ 世界でも報告例が少ないとされるオレンジ・コンビクトゴビー

10/ドドロの砂地で輝きを放っていたケンショウハゼ

09/イロワケガラスハゼのオタクにアカメハゼがお邪魔しているようです

11/こちらもなかなか洗いや魅力のマスイダテハゼ



Information Link

<http://www.ishigaki-diving-school.com>

関連情報HPへ



01/スイーツのように美しいアカテンイロウミウシ
02/共生ハゼに寄生しているスジメキヌハダウミウシ
03/もの凄いデザインをしたニシキウミウシと遭遇した



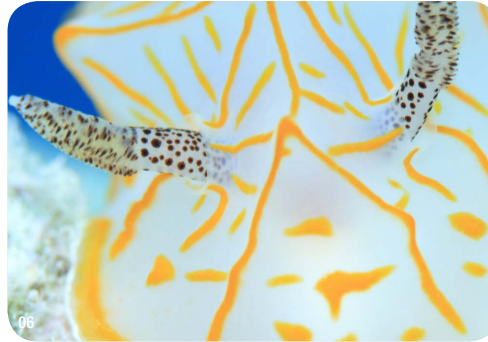
竹内のウォッチングアドバイス

* ウミウシ編

ミウシは動きが遅いので、ウォッチングには向いている生物です。撮影も色々な角度からトライしたり、設定を変えたりと色々できるのが嬉しいですね。小さい個体は探すのが難しいように感じる方が多いかと思いますが、そのウミウシが好んで食べているものがあり、その周辺を細かく探すとみられることが多いです。

一度見つけたら周りの環境や食べているものを覚えておくと次探す時に役立ちますよ！また、ミリサイズの極小ウミウシも多いので、虫眼鏡があると観察しやすいと思います。

あっ、どうも。
ウミウシです。



04/アカフチリュウグウウミウシがシラヒゲウニの上を横断していました

06/本当に寒天のようなキスジカンテンウミウシ。なんだか美味しそう

08/ミズレウミウシの二次鰓をクローズアップしてみたらキラキラ模様が素敵でした

05/ちいさなトサカリュウグウウミウシが笑いホヤをむしゃむしゃと

07/人気のウデフリツノザヤウミウシもスタンバイしています

09/鮮やかなアデヤカミノウミウシ。個人的にこの感じが好きです

10/極小サイズのラベンダーウミウシ。かわいいなあ

Sea slug Maniacs ウミウシに夢中

「これから春にかけての時期は、見られるウミウシがどんどん増えてくるんですよ」なるほどなるほど。今度はウミウシですか。確かにウミウシが好きだというダイバーにはよく出会う。ガイドとしても冬の定番人気ネタとして抑えておきたいようだ。

色がキレイなところ、種類が多いこと、動きが早くないので写真が撮りやすいという具合にウミウシの魅力について力説するガイド竹内氏。うんうんそうだねそうだね。と頷いてはみるものの、これまで魚に夢中であり真剣にウミウシを撮ってこなかったカメラマン。被写体に対する興味の若干の温度差を感じながらウミウシサーチを開始する。

「これ笑いホヤ食べてます」「この鰓キレイだと思いませんか？」たしかに探すとポロポロとたくさん見つかる。そしてなによりいろんなシチュエーションがあって、絵作りが楽しい……。やばい。ウミウシ大好きになってしまいそうぞ。遅すぎると言われてしまうかもしれないが、今回の取材でウミウシの魅力を見つけた。これはハマる。

Ishigakijima Diving School presents

石垣島 マニアックス!



Information Link

<http://www.ishigaki-diving-school.com>

関連情報HPへ

IDS Lunch Collection

ランチも多彩なメニューが目白押し

今回のIDSでの取材で密かに楽しみにしていたのが、毎度のランチ。石垣島のダイビングサービスは、船上で休憩しながらランチは弁当というパターンが多い。しかしながらこだわりの店IDSはランチにもトントンこだわり抜く。基本的にソバの出汁なども船上

でとり、薬味なども乾燥ものは使わず新鮮なものを使い、ソーキは前日から仕込んでくるというこだわり。冬場の冷えた身体に暖かい汁もの、麺ものは最高だ。最近ではこのランチを目当てに、現地のショップが船に乗り合いにやってくるのか来ないか……。

メインシェフは竹内さんと、元料理人のスタッフ梅ちゃん。お互いに切磋琢磨しながらIDSのランチは日々進化充実していく。「海はもちろんなんですけど、ランチもお腹いっぱい食べてもらいたいです！」と目を輝かせる竹内さん。その食へのこだわりは衰えることはない。

09/船内には「うめ~~~~~!」という声がかかります
10/「カレーうどん&リゾット」by竹シェフ
11/あまりの美味しさに食べている時は、みんな基本無口になる



01/今日は竹内シェフの自信作。美味しく頂いております
02/「特製とろとろソーキそば」by竹シェフ



竹内のウォッチングアドバイス * 番外編ランチ(?)



その日の朝に買った新鮮な食材を船上にて新鮮なうちに提供しています。このため人数が多すぎると調理する事ができませんが、今は手作りランチを目当てに遊びに来てくれる方も多いため、頑張っています。手作りランチはお弁当より経費が掛らないという理由で作られているお店が多いのですが、当店はむしろ若干高くつく方が多いのですが、合気入れて作らせて頂いております。船上でダイビングの合間に汁をとっているお店なんて、なかなか無いと思いますよ(笑)

03/「特製モツカレーうどん」by梅シェフ
04/竹内さん曰く「最高のスパイスは愛情です」。皆にその愛情が伝わっているようです
05/「ビーフンチャー風パスタ&リゾット」by竹シェフ
06/冷えた身体に汁ものがしむわたるんです

07/「特製八重山そば&雑炊」by竹シェフ
08/見てくださいこの量。もちろんおかわりもたっぷりあります

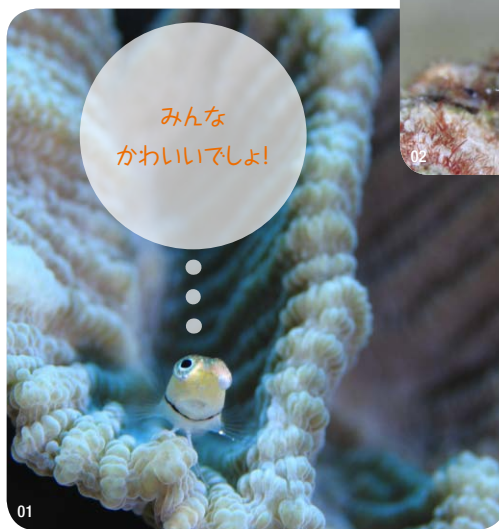


12/さすが元料理人。梅シェフのつくる「イタリアントマトうどん」は絶品だ!
13/キこちらは食べる専門のスタッフ松浦さん。美味しくうに残さず食べます
14/鰹節から出汁をとる。ここから愛情の注込みははじまっています
15/目にも止まらぬスピードでネギを刻む

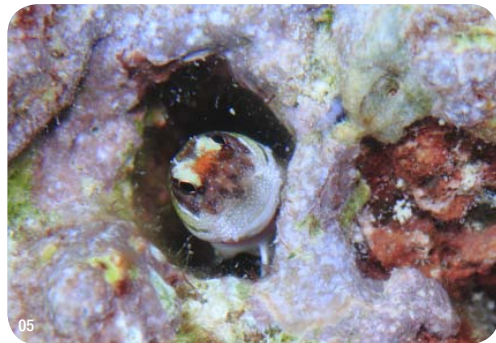
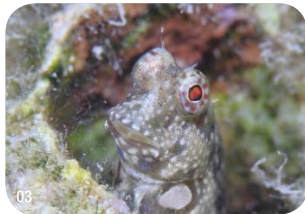


Ishigakijima Diving School presents
**石垣島
マニアックス!**

「古見さんは何かコレといったリクエストないですか？」そんなことを聞かれてしまったらカエルウオと即答するしかない。そうなんです、僕は無類のカエルウオ好き。どこの海に行ってもカエルウオがいればご機嫌なのである。石垣はイシガキカエルウオやヒトスジギンポ、インドカエルウオなどがいたところにおいて、様々なシチュエーションでの撮影が楽しめる。サンゴをからめたり、ケヤリをからめたりとあれこれ試してみよう。竹内さん一押し「ギンポ山」もカエルウオファンにはたまらない。極狭い範囲の穴という穴から、可愛いヤイトギンポやヒナギンポが顔を出している。個人的には1ダイブここにおいても全く問題ない。まさにとことんカエルウオポイントだ。



みんな
かわいいでしょ!



Ishigaki Jima Diving School presents
**石垣島
マニアックス!**

- 01/イシガキカエルウオはかなり個体数も多くいろんな絵作りが出来る
- 02/最近IDSで話題沸騰中のヤイトギンポ。かわいいんです
- 03/赤い瞳がチャームポイントのシマギンポ
- 04/インドカエルウオはサンゴの隙間をちょろちょろと動きまわる
- 05/なんだかちょっと不満そうな顔をしているヒナギンポ
- 06/不動の人気モンツキカエルウオ
- 07/イシガキカエルウオが興奮色を出して真っ黒に!

Blenny & Crustacean Maniacs

ちかごろ話題のカエルウオとマニア垂涎の甲殻類



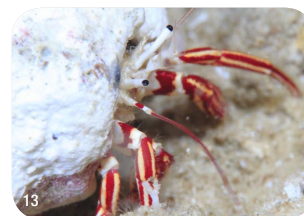
竹内のウォッチングアドバイス

カエルウオ&エビカニ編

カエルウオは様々な種類がありますが、小さい種ほど完全に穴には引っ込まない気がします。住む環境も種によってある程度限られているので、完全に引っ込まないカエルウオは比較的探しやすいと思います。モンツキカエルウオなど大型になるカエルウオは穴の奥の方まで引っ込んでしまうことが多いので、探す時は少し遠くを見て穴に入る前に見つけるのがコツです。カエルウオは目がキョロキョロ常に動いて、その瞬間で表情がコロコロ変わります。ぜひ自分のお気に入りの表情を探してみてください。

甲殻類を探す際は、知識無く探すと周りの環境を壊してしまう可能性があるため、リクエストを伝えて極力はガイドにお任せしましょう。見つけてもらうことができれば、ウミウシ同様動きの遅いものが多いので比較的容易に観察できると思います。

- 10/白くてカッコいい柄のバサラカクレエビ
- 11/こちらもなかなか珍しいサンゴヒメエビの仲間
- 12/オレンジの脚が美しいフルセブラヤドカリ
- 13/なんでこんなにも派手な脚をしているのか? ダンダラヒメヨコバサミ

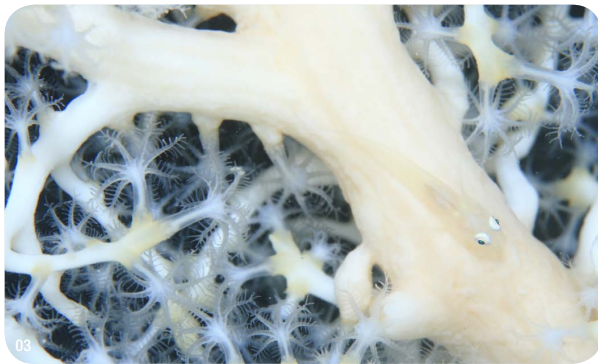


- 08/竹内さんも見つけて興奮していたアーレイボクサーシュリンプ
- 09/サンゴに自分のひまる型を作るアシピロサンゴヤドカリ

甲殻類も根強い人気のある生き物だらう。特に近年では脚の色が鮮やかなゼブラヤドカリの仲間など人気が出てきているとのこと。たしかにオレンジやら赤やら派手な色合いがステキ。ヤドカリってどうしてもちょっと地味な印象があったりするのだが、このヤドカリたちには本当に驚かされた。

続けて潜っていると竹内さんが興奮気味に手招きをしている。「やりました!めっちゃ珍しいです」と書かれたスレートの前には可愛いエビちゃんが。アーレイボクサーシュリンプ。竹内さん自身も2度目の出会いだとか。僕は当然のように初めて目にするエビだが、上品な紅白模様が美しい。ダイビングを長く続けていると、初めて出会うという生物は徐々に減ってくるものだ。今回は純粋に初めて出会う喜びのようなものを少し思い出すことができた。

その奥にあるメッセージや物語が感じられるような写真を、常々撮りたいと思っているので、生物そのものを写すだけではなく、周辺の環境と一緒に写し込むような写真を心がけている。石垣島は様々な海底環境があるので、そのような写真がもの凄く撮りやすいというわけだ。砂地に何気なく生えている海藻にウミウシがついていたり、色鮮やかなソフトコーラルやホヤなどにハゼがついていたり。撮影者の心をくすぐるようなニクイ場面がたくさんある。最初のうちはあまり生き物が見えてこないかもしれないが、「なにかいるといいなあ」という軽い感じで色々なところをゆっくり覗いていくと、徐々に目が慣れて見えてくるかもしれない。宝探しのように楽しいですよ。



01/イバラカンザシの横からちょこっと顔を出すイシガキカエルウオ

02/サボテングサに卵を産みつけるウミシヨウブハゼの仲間

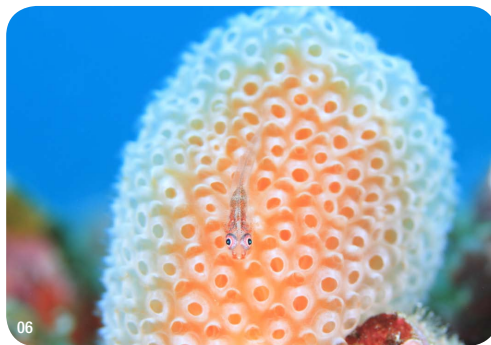
03/キレイなソフトコーラルにウミタケハゼの仲間が隠れていた

04/このタコとナカモトイロワケハゼの関係って……

05/砂地にボツとひとり寂しくたたずむタツノハトコを表現してみました



そしてワシはひとり……



06/イチョボヤに何かが付いているといいなあと思ってみたらハゼがいてくれました

07/ウミシダにぶら下がっている格好のコマチコンオリエビ。疲れないのでしょうか

08/チャツボボヤにもハゼがついていることがあります

09/触ると痛いアナサンゴモドキの仲間にもたくさんハゼが隠れています



IshigakiJima Diving School presents
石垣島マニアックス!



竹内のウォッチングアドバイザー

環境編

小さいものは大きく撮影したいと思われる方が多いかもしれませんが、例えば背景が綺麗だったりとか、住んでいる場所が綺麗だったりなど視野を少し広げればまた違った雰囲気の写真の撮ることができると思います。また水深や天候によって水中の明るさは変わりますが、浅くて明るければあえてノーストロボで撮影してみるとか、シャッタースピードを遅くしてみるなど色々試すと面白いと思いますよ。

Location Maniacs

隠れたナイスロケーションを探せ





01/ ルリホシズメダイの幼魚。「瑠璃星」って地球のことですかね？

02/ シモフリタナバタウオ。天の川が見られる時に会ったらしいことがありそう

03/ かわいい顔だけどカッコいい名前のシリウスベニハゼ

04/ オルトマンワラエビに似ているホシゾラワラエビ

05/ 星空ネームの代表格ともいえるギンガハゼ。石垣の個体はめっちゃ寄りやすい

06/ こちらはまたロマンチックな名前のホシズベニハゼ

07/ ナガレボシ。僕が大好きな名前の魚です

08/ ヒトデの仲間にはホウキボシと呼ばれるものもいるんですよ

09/ ウミヅキチョウチョウウオ。海から満月が昇ってきたような模様ですね



見上げて
ごらん〜♪

Starry sky Collection 星空を感じる海

取材なかばの昼食時。石垣にはたくさん種類のいるベニハゼの話題になった。この数年間で標準和名が付いたベニハゼがけっこういると。ベガスベニハゼやシリウスベニハゼ、ホシズベニハゼといったロマンチックな星座の名前がついているものが多い。「なんだかそういうのも面白いね〜」と盛り上がっていたら、「ホシゾラワラエビっていうのもいますよ!」「オトヒメエビもそうですね!」という具合に次から次へとロマンチック生物が挙げられる。被写体自体の珍しさだけでなく、このように名前からフィッシュウォッチングを楽しんでみるものもいいのかもしれないですね。



10/ オキナワベニハゼにそっくりなベガスベニハゼ

11/ フタホシホシハゼ。「ふたほしほし」っていうことは全部で星3つですね

12/ ウコンハネガイの前でゆったり構えるオトヒメエビ



Ishigaki Jima Diving School presents

石垣島 マニアックス!



Information Link
<http://www.ishigaki-diving-school.com> 関連情報HPへ



How to enjoy Ishigaki Island

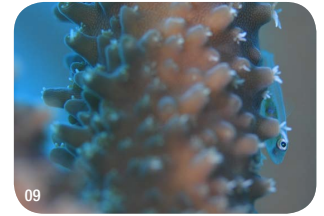
きゅう的 石垣島のマニアックな愉しみかた

「冬時期のマクロの面白さをとことん味わってほしいんですね」という竹内さんの熱いリクエストからはじまった今回の撮影。冬の時期は北風が強くなり、島の北部は市内からではアクセスし難くなる。そんな冬場のイチオシポイントは名蔵湾周辺になる。かなり奥まった湾のため、水の入替わりが少なく夏場は濁りやすく視界も悪い。冬場は透明度も上がり、マクロ天国名蔵湾の本領発揮な

のである。深場から浅場、ドロップオフにサンゴ、泥、ガレ場と撮影するには最適な環境が揃っている。「何度潜っても飽きないですよ。毎回何かしら発見がありますし、やっぱりこの時期の名蔵湾はやめられないです」大きな身体で小さな魚が大好きな竹内さんが、今度は何をみせてくれるだろう？

石垣の生物の豊富さにはいつも感心させられる。個人的に読者の皆さんにちょっと気

にしてもらいたいのが、「海のちいさな面白さ」に気がついてほしいということ。形が変わった海藻があるとか、やけにタラコ唇の魚がいるとか、変な名前の魚がいるとか、例えばなんでもいと思います。ただただ何となく見るのではなく、石垣にたくさんいる生き物をいろんな角度から見て、撮って、感じてみてください。ちょっとマニアックな世界が開けてくるかもしれませんよ。



- 01/ みんなでいろいろと探して撮影をしていると、また一段と楽しい
- 02/ IDSのスタッフはみんないつも楽しんでいるのが伝わってくる
- 03/ IDSで最近流行の冬場のスーツスタイル。レンタルスーツ2枚重ね
- 04/ ウミギクガイモドキとカンザシヤドカリの異文化コミュニケーション
- 05/ ヨツメトラギスは本当に目が4つ!
- 06/ 取材時にみんなから注目を集めたセダカワハギの幼魚。大きさ1mmほど
- 07/ これがウワサのピグミーシードラゴン? 埃のようにしか見えなかった
- 08/ アツクチスズメダイ。情熱的な唇が自慢
- 09/ とてもしもなく人見知りな感じのヒトミシリハゼ。そろそろ顔見知りになりませんか
- 10/ なんだかカエルちゃんに見えませんか?

IshigakiJima Diving School presents
石垣島 マニアックス!

Information Link
<http://www.ishigaki-diving-school.com> 関連情報HPへ

*
石垣島
ダイビングスクール

石垣島の老舗ダイビングサービス。古くからフィッシュウォッチングや水中撮影に力を注ぎ、数々のゲストに愛されてきた。IDSのスタイルとしては珍しい生物ばかりをただ見せるだけではなく、ゲストのニーズに応えることを最優先とし、今回紹介してきたようなちょっとユニークな生き物たちの紹介もしてくれる。代表の竹内さんをはじめ、松浦さん、宇崎さん、梅ちゃんの強力で愉快的ガイド陣がスタンバイ。ダイビングからランチまで完璧なサポートを約束してくれる。

〒907-0013
沖縄県石垣市浜崎町2-3-8
TEL 0980-82-1353



01

01/大型ダイビングボート「デルフィン」。



竹内 友哉さん(竹ちゃん)
IDS 代表。抜群の観察眼で様々な生き物を探し出す、文字通り石垣の海を魅せてくれる名ガイド。マニアックな知識は海の生物だけではなく、食から雑学、ワンピースなどなど、じつに幅が広いエンターテイメント。飽くなき向上心と探究心の塊だ。



梅田 あゆみさん(梅ちゃん)
IDS 最強のシェフ。スタッフ最年少でありながら、スタッフの胃袋を任される重要なポジション。ガイドも体験ダイビングもつつみこむような安心感がゲストから支持を集める。竹ちゃんとならびカラオケ好き。



松浦 卓宏さん(まつん)
IDS 爆笑隊長。彼の周りはなぜかいつも爆笑が起こるといふナイスキャラ。その才能は海の間でもいかに発揮され、一緒に潜ったダイバーはみんな笑顔で船があがってくる。ご飯は残さず食べるタイプ。



宇崎 美里さん(うっちー)
IDS 片付け担当。ランチの準備に追われる竹シェフから次々と出されるゴミを、サッと片付ける気配り上手。きめ細やかで、丁寧なガイドイングに老若男女ファンも多い。

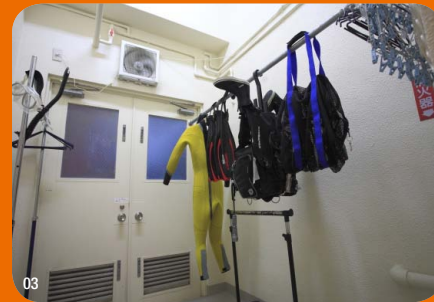
Ishigaki Jima Diving School presents
石垣島
マニアックス!

»» Hotel information

- 02/にこやかで素敵なスタッフの方々です
- 03/器材乾燥室も完備。ダイバーにはうれしいですね
- 04/部屋も広く快適。無料の有線LANも完備
- 05/フロントの呼び鈴も石垣っぽくてオシャレでした



02



03



05

*
ホテル ククル

繁華街の入り口あり、レストランも併設され、すぐ隣はコンビニと抜群の立地条件がうれしい。館内は白を基調に清潔で美しく、ナチュラルなイメージ。器材の洗い場と乾燥室も完備されているので、ダイバーの使い勝手も抜群にいい。写真中央のマネージャーの中川さんをはじめ、にこやかなスタッフが迎えてくれる、居心地のよさ満点のホテルだ。各部屋有線LAN完備。ちなみに古見きょうもいつもお世話になっています。

TEL 0980-82-3380
<http://www.cucule.jp>



04

»» Shop information

